

V 検 査 情 報

V 検査情報

1. ウイルス検査情報（大阪府・大阪市・堺市）

2024年1月から12月の間に大阪健康安全基盤研究所微生物部ウイルス課、堺市衛生研究所微生物グループにおいて検査を行った検体総数は1583件であり、2023年の1591件から0.5%減少した。2024年のウイルス検出総数（重複を含む）は659例で、2023年の788例に比べて16.4%減少した。ウイルスが検出された検体は1583件のうち632件で、陽性率は39.9%であり、2023年から7.8%減少した。

1) 2024年検出ウイルス

(1) 月別ウイルス検出数（表1）

年間で最も多く検出されたウイルスはインフルエンザウイルスの327例、次いでエンテロウイルス79例、ライノウイルス54例、ノロウイルス51例、麻しんウイルス34例、アデノウイルス23例、RSウイルス20例、ヒトメタニューモウイルス19例、パレコウイルス9例、コロナウイルス8例、ロタウイルス7例、サポウイルス7例、パラインフルエンザウイルス6例、ヘルペスウイルス4例、アストロウイルス3例の順であった（表1）。

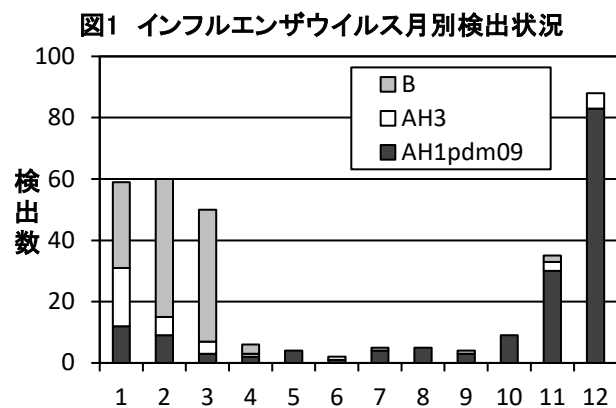
月別のウイルス検出数では、12月が107例と最も多く、次いで3月87例、2月82例、1月81例、11月69例、6月53例の順であった。1月、2月、3月、11月および12月はいずれの月もインフルエンザウイルスの検出数が最も多かった。6月はエンテロウイルスの検出数が最も多かった。

インフルエンザウイルスは年間を通して検出され、12月に88例と最も多く、次いで2月に60例、1月に59例であった（図1）。型別の検出数は、AH1pdm09が165例と最も多く、Bビクトリア系統が122例、AH3亜型が39例であった。

エンテロウイルスは1月から3月および5月から12月に検出され、6月に17例と最も多く、次いで10月に12例、7月に11例であった。

型別では、コクサッキーウイルスA6型が35例と最も多く、次いで多かったのはコクサッキーウイルスA16の14例、エンテロウイルスA71の8例であった（図2）。

ライノウイルスは年間を通して検出され、11月に10例と最も多く、次いで5月および6月に各7例であった。遺伝子群が判明しているのは54例中13例で、そのうち8例がC群であった（図3）。



ノロウイルスは1月から3月、5月から8月、11月および12月に検出され、3月が11例と最も多く、次いで6月に10例、2月に8例であった。遺伝子群別では、遺伝子群G1が2例、遺伝子群G2が49例であった(図4)。

麻疹ウイルスは2月、3月、5月、11月および12月に検出され、3月が17例と最も多く、次いで11月に7例、12月に4例であった。型が判明しているのは23例で、D8が11例、B3が6例であった(図5)。

アデノウイルスは1月、2月および4月から11月に検出され、1月および5月に各4例と最も多く、次いで2月および10月に各3例であった。型別では、2型が10例と最も多く、次いで3型が4例であった。

RSウイルスは1月から7月、9月および11月に検出され、4月が6例と最も多く、次いで3月に3例、2月、5月、6月および7月に各2例であった。型別では、A型が15例、B型が5例であった。

ヒトメタニューモウイルスは1月、3月から6月、8から11月に検出され、9月および10月に4例と最も多く、次いで4月に3例であった。

パレコウイルスは6月および8月から12月に検出され、12月に3例と最も多く、次いで11月に2例であった。

コロナウイルスは1月から3月、5月および6月に検出され、5月に3例と最も多く、次いで6月に2例であった。

図2 エンテロウイルス月別検出状況

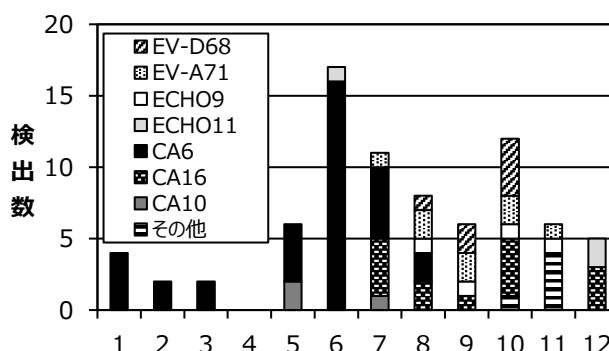


図3 ライノウイルス月別検出状況

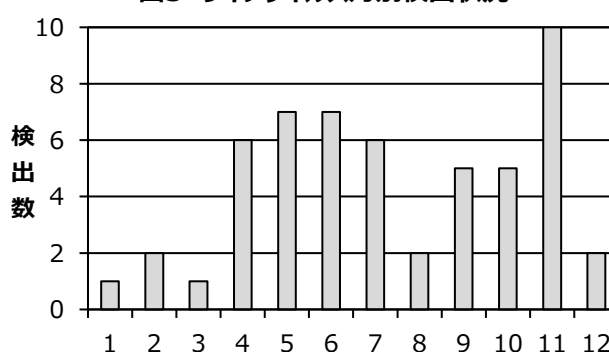


図4 ノロウイルス月別検出状況

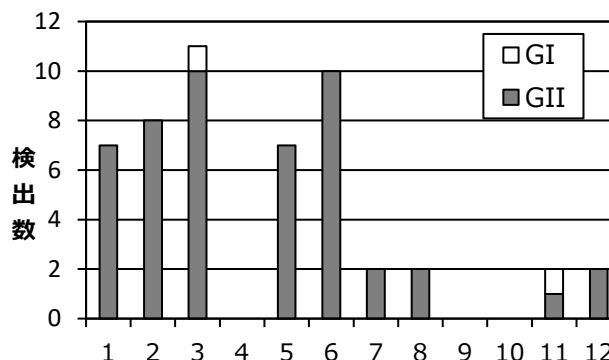


図5 麻疹ウイルス月別検出状況

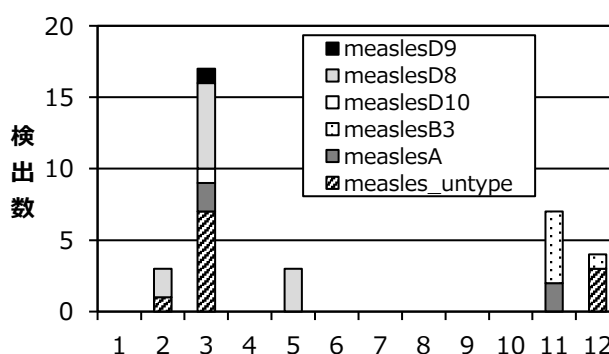


表1 月別ウイルス検出数 (2024.1~12)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Ad_untype										1			1
Ad1	1						1						2
Ad2	2				3	2		1			2		10
Ad3	1	1		1	1								4
Ad37		1							1	1			3
Ad53		1											1
Ad54										1			1
Ad56				1									1
Astro_type1			1							1			2
Astro_type4						1							1
CA10					2		1						3
CA16							4	2	1	4		3	14
CA5										1			1
CA6	4	2	2		4	16	5	2					35
CB3											1		1
Dengue1					1								1
Dengue3								1					1
ECHO11						1						2	3
ECHO7											2		2
ECHO9								1	1	1	1		4
EV-A71							1	2	2	2	1		8
EV-B											1		1
EV-D68								1	2	4			7
FLU_AH1pdm09	12	9	3	2	4	1	4	5	3	9	30	83	165
FLU_AH3	19	6	4	1		1					3	5	39
FLU_B			1										1
FLU_B_Victoria	28	45	42	3			1		1		2		122
Hbov						1							1
HCoV-HKU1		1			1	2							4
HCov-NL63			1		2								3
HCov-OC43	1												1
HHV6_untype	1			1						1			3
HHV7	1												1
hMPV	1		1	3	2	1		2	4	4	1		19
HPeV_untype											2		2
HPeV1								1		1		3	5
HPeV3						1							1
HPeV6									1				1
measles_untype		1	7									3	11
measlesA			2								2		4
measlesB3											5	1	6
measlesD10			1										1
measlesD8		2	6		3								11
measlesD9			1										1
NVG1-2											1		1
NVG1-3			1										1
NVG2_untype			1		1	2							4
NVG2-17			1				1						2
NVG2-4	6	6	3		2	1	1	2			1		22
NVG2-6						1						2	3
NVG2-7	1	2	5		4	6							18
ParvoB19											1	1	2
PIV1					1								1
PIV3					1	4							5
Rhino_untype	1	1		6	5	5	5	1	4	2	9	2	41
RhinoA					1	2	1						4
RhinoB									1				1
RhinoC		1	1		1			1		3	1		8
RotaAG1				1									1
RotaAG2				1	1								2
RotaAG3											2	1	3
RotaAG8					1								1
RSA	1	1	2	4	2	2	1		1		1		15
RSB		1	1	2			1						5
SapoG1-1	1												1
SapoG2												1	1
SapoG2-5				1		1	2						4
SapoG5		1											1
STFSウイルス						1							1
VZV						1	1						2
計	81	82	87	27	43	53	30	22	22	36	69	107	659

0の場合には空白としている

(2) 年齢別ウイルス検出数 (表 2)

年齢群別で最も多くウイルスが検出されたのは 15 歳以上の 184 例であった。次いで 1 歳未満の 84 例、1 歳の 80 例、10 から 14 歳の 78 例、2 歳の 45 例の順であった。

15 歳以上で最も多く検出されたウイルスは、インフルエンザウイルスの 144 例で、次いで麻疹ウイルスの 25 例、アデノウイルスの 6 例であった。

1 歳未満で最も多く検出されたウイルスは、エンテロウイルスの 24 例で、次いで RS ウイルスの 13 例、ライノウイルスの 10 例であった。

1 歳で最も多く検出されたウイルスは、エンテロウイルスの 21 例で、次いでノロウイルスの 16 例、インフルエンザウイルスの 12 例であった。

10 から 14 歳で最も多く検出されたウイルスは、インフルエンザウイルスの 71 例で、次いでライノウイルスの 2 例で、エンテロウイルス、メタニューモウイルス、ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルスは各 1 例であった。

2 歳で最も多く検出されたウイルスは、エンテロウイルスの 14 例で、次いでインフルエンザウイルスの 10 例、ライノウイルスの 6 例であった。

2) 2024 年検体数およびウイルス陽性率

(1) 月別検体数およびウイルス陽性率 (表 3)

月別検体数は、3 月の 286 件 (286/1583、18.1%) が最も多く、次いで 12 月 235 件 (14.8%)、1 月および 11 月 137 件 (8.7%)、4 月 135 件 (8.5%) の順であった。

3 月は麻疹・風しんの検体が 188 件 (65.7%、188/286) と最も多く、次いでインフルエンザが 52 件 (18.2%)、感染性胃腸炎が 16 件 (5.6%) であった。

12 月はインフルエンザの検体が 104 件 (44.3%、104/235) と最も多く、次いで麻疹・風しんが 81 件 (34.5%)、その他が 16 件 (6.8%) であった。

1 月はインフルエンザの検体が 65 件 (47.4%、65/137) と最も多く、次いで次いで麻疹・風しんが 31 件 (22.6%)、感染性胃腸炎が 13 件 (9.5%) であった。

11 月はインフルエンザの検体が 41 件 (29.9%、41/137) と最も多く、次いで麻疹・風しんが 39 件 (28.5%)、無菌性髄膜炎が 10 件 (7.3%) であった。

4 月は麻疹・風しんの検体が 88 件 (65.2%、88/135) と最も多く、次いでインフルエンザ、感染性胃腸炎、その他が各 8 件 (5.9%) であった。

月別検体ウイルス陽性率は、2 月の 76.4% (81/106) が最も高く、次いで 1 月 59.1% (81/137)、11 月 48.9% (67/137)、10 月 47.8% (33/69)、12 月 45.5% (107/235) の順であった。また、陽性率が低い月は 4 月 17.8% (24/135)、8 月 24.4% (21/86)、3 月 29.7% (85/286) であった。

(2) 疾患別検体数およびウイルス陽性率 (表 3)

疾患別検体数は、麻しん・風しんの 656 件 (41.4%、656/1583) が最も多く、以下、インフルエンザ 376 件 (23.8%)、感染性胃腸炎 131 件 (8.3%)、その他 93 件 (5.9%)、無菌性髄膜炎 70 件 (4.4%) の順であった。

麻しん・風しんは 3 月の検体が 118 件 (18.0%、118/656) と最も多く、次いで 4 月 88 件 (13.4%)、12 月 81 件 (12.3%) であった。麻疹ウイルスが検出された検体は 34 件 (5.2%、34/656) で、風しんウイルスは検出されなかった。

インフルエンザは 12 月の検体が 104 件 (27.7%、104/376) と最も多く、次いで 1 月 65 件 (17.2%)、2 月 60 件 (16.0%) であった。インフルエンザウイルスが検出された検体は 326 件 (86.7%、326/376) で、次いでエンテロウイルスおよびヒトメタニューモウイルス各 5 件 (1.3%) であった。

感染性胃腸炎は 6 月の検体が 19 件 (14.5%、19/131) と最も多く、次いで 3 月 16 件 (12.2%)、1 月および 10 月 13 件 (9.9%) であった。ウイルスが検出された検体は、ノロウイルスが 50 件 (38.2%、50/131) と最も多く、次いでロタウイルスおよびサポウイルス各 7 件 (5.3%) であった。

その他は 12 月の検体が 16 件 (17.2%、16/93) と最も多く、次いで 7 月および 8 月各 13 件 (14.0%) であった。ウイルスが検出された検体は、ライノウイルスが 11 件 (11.8%、11/93) で最も多く、次いでエンテロウイルス 10 件 (10.8%)、アデノウイルス 2 件 (2.2%) であった。

無菌性髄膜炎は 7 月の検体が 12 件 (17.1%、12/70) と最も多く、次いで 11 月 10 件 (14.3%)、3 月 9 件 (12.9%) であった。ウイルスが検出された検体は、ライノウイルスが 6 件 (8.6%、6/70) で最も多く、次いでエンテロウイルス 2 件 (2.9%)、ヒトメタニューモウイルス 1 件 (14.3%) であった。

疾患別検体ウイルス陽性率は、流行性角結膜炎・急性出血性結膜炎 (100.0%、5/5) が最も高く、次いでインフルエンザ (89.4%、336/376)、手足口病 (79.4%、54/68)、咽頭結膜熱 (78.6%、11/14)、RS ウイルス感染症 (64.7%、22/34) であった。また、陽性率の低い疾患は、流行性耳下腺炎 (0%、0/3)、麻しん・風しん (5.2%、34/656)、無菌性髄膜炎 (14.3%、10/70) であった。

(3) 検体種別検体数およびウイルス陽性率 (表 4)

検体種別検体数は、咽頭拭い液の 461 件 (29.1%、431/1591) が最も多く、以下、鼻汁・鼻腔拭い液 284 件 (17.9%)、血液・血清 247 件 (15.6%)、尿 220 件 (13.9%)、便・直腸拭い 213 件 (13.5%) の順であった。

咽頭拭い液は麻しん・風しんの検体が 210 件 (45.6%、210/461) と最も多く、次いでインフルエンザが 116 件 (25.2%)、手足口病が 49 件 (10.6%) であった。

鼻汁・鼻腔拭い液はインフルエンザの検体が170件（59.9%）と最も多く、次いで下気道炎が28件（9.9%）、その他が23件（8.1%）であった。

血液・血清は麻しん・風しんの検体が221件（85.4%、211/247）と最も多く、次いでその他が10件（4.0%）、伝染性紅斑が6件（2.4%）であった。

尿は麻しん・風しんの検体が211件（95.9%、211/220）と最も多く、次いで無菌性髄膜炎が5件（2.3%）、デング熱が2件（0.9%）であった。

便・直腸拭いは感染性胃腸炎の検体が128件（60.1%、128/213）と最も多く、次いでその他が40件（18.8%）、手足口病が15件（7.0%）であった。

検体種別ウイルス陽性率は、結膜拭い液 100.0%（5/5）が最も高く、次いでうがい液 96.6%（85/88）、鼻汁・鼻腔拭い液 78.2%（222/284）、喀痰・気管吸引液 76.9%（10/13）、便・直腸拭い 47.4%（101/213）の順であった。また、陽性率の低い検体種は、尿（4.1%、9/220）、髄液（6.1%、3/49）、血液・血清（7.3%、18/247）であった。

（文責：廣井）

表 2 年齢別ウイルス検出数 (2024.1~12)

年齢 (才)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15以上	不明	計
Ad_untype		1												1
Ad1		2												2
Ad2	2	4	1	2						1				10
Ad3		2	2											4
Ad37												3		3
Ad53												1		1
Ad54	1													1
Ad56												1		1
Astro_type1	1		1											2
Astro_type4							1							1
CA10	1	1								1				3
CA16	4	2	3	1		2		2						14
CA5						1								1
CA6	6	14	7	2	3	1	1	1						35
CB3			1											1
Dengue1												1		1
Dengue3												1		1
ECH011	3													3
ECH07	2													2
ECH09	2						1		1					4
EV-A71	3	1	3		1									8
EV-B	1													1
EV-D68	2	3			1						1			7
FLU_AH1pdm09	1	5	6	5	6	7	5	8	5	6	27	84		165
FLU_AH3	2	5	2		2		3	1		1	4	19		39
FLU_B		1												1
FLU_B_Victoria	2	1	2	3	5	3	5	7	4	9	40	41		122
Hbov		1												1
HCoV-HKU1	1				3									4
HCoV-NL63	2		1											3
HCoV-OC43	1													1
HHV6_untype			1	1		1								3
HHV7	1													1
hMPV	6	4	3	1	1		1		1		1	1		19
HPeV_untype			1	1										2
HPeV1	2	3												5
HPeV3					1									1
HPeV6	1													1
measles_untype	4	1										6		11
measlesA		2										2		4
measlesB3	1											5		6
measlesD10												1		1
measlesD8	1											10		11
measlesD9												1		1
NVG1-2			1											1
NVG1-3												1		1
NVG2_untype		3		1										4
NVG2-17	1											1		2
NVG2-4	2	11	3	2		2			1	1				22
NVG2-6	1			1		1								3
NVG2-7	1	2		4	2	4	1	1	1	1		1		18
ParvoB19				1							1			2
PIV1	1													1
PIV3				2	2					1				5
Rhino_untype	6	4	6	4	4	3	1	6	2	1	2	2		41
RhinoA	2	1			1									4
RhinoB		1												1
RhinoC	2	1		1		2		1					1	8
RotaAG1	1													1
RotaAG2							1					1		2
RotaAG3				1				2						3
RotaAG8											1			1
RSA	8	4	1	2										15
RSB	5													5
SapoG1-1				1										1
SapoG2											1			1
SapoG2-5				2				1	1					4
SapoG5					1									1
STFSウイルス												1		1
VZV	1					1								2
計	84	80	45	38	33	28	20	30	16	22	78	184	1	659

0の場合には空白としている

表 3. 月別・疾患別検体数とウイルス陽性数（2024.1～12）

疾患名/月	1	2	3	4	5	6	7
インフルエンザ	65(61) CA6(1) FLU_AH1pdm09(12) FLU_AH3(19) FLU_B_Victoria(28) RSA(1)	60(59) FLU_AH1pdm09(9) FLU_AH3(6) FLU_B_Victoria(45) <<2重複1>>	52(50) FLU_AH1pdm09(3) FLU_AH3(4) FLU_B_Victoria(42) RSA(1)	8(7) FLU_AH1pdm09(2) FLU_AH3(1) FLU_B_Victoria(3) hMPV(1) Rhino_untype(1) <<2重複1>>	9(5) CA6(1) FLU_AH1pdm09(4)	5(3) FLU_AH1pdm09(1) FLU_AH3(1) Rhino_untype(1)	7(5) FLU_AH1pdm09(4) FLU_B_Victoria(1)
咽頭結膜熱	1(0)	1(1) Ad3(1)	1(0)	1(1) Ad3(1)	3(3) Ad2(1) Ad3(1)	1(1) Ad2(1)	2(1) Ad1(1)
感染性胃腸炎	13(8) NVG2-4(6) NVG2-7(1) Sapog1-1(1)	9(9) NVG2-4(6) NVG2-7(2) Sapog5(1)	16(11) Astro_type1(1) NVG1-3(1) NVG2_untype(1) NVG2-17(1) NVG2-4(3) NVG2-7(5) <<2重複1>>	8(3) RotaAG1(1) RotaAG2(1) Sapog2-5(1)	12(11) Ad2(2) NVG2_untype(1) NVG2-4(2) NVG2-7(4) RotaAG2(1) RotaAG8(1)	19(12) Astro_type4(1) NVG2_untype(2) NVG2-4(1) NVG2-6(1) NVG2-7(6) Sapog2-5(1)	11(4) NVG2-17(1) NVG2-4(1) Sapog2-5(2)
水痘				2(0)		1(1) VZV(1)	1(1) VZV(1)
手足口病	4(3) CA6(3)	3(2) CA6(2)	1(1) CA6(1)		6(5) CA10(2) CA6(3) RhinoA(1) RhinoC(1) <<2重複2>>	16(14) CA6(14) RhinoA(1) <<2重複1>>	12(11) CA16(4) CA6(5) EV-A71(1) RhinoA(1)
ヘルパンギーナ					3(1) hMPV(1)	6(4) Ad2(1) CA6(1) ECHO11(1) hMPV(1)	2(1) CA10(1)
伝染性紅斑			1(0)	3(0)			
突発性発しん	4(4) Ad3(1) HHV6_untype(1) hMPV(1) HHV7(1)	2(0)		1(1) HHV6_untype(1)	1(0)	1(0)	
流行性耳下腺炎					3(0)		
脳症・脳脊髄炎	3(0)		2(0)		4(1) Rhino_untype(1)	5(2) Hbov(1) Rhino_untype(2) <<2重複1>>	
無菌性髄膜炎	3(0)	3(1) RhinoC(1)	9(0)	4(0)	2(0)	4(1) RhinoA(1)	12(0)
口内炎・上気道炎			1(0)			5(5) HCoV-HKU1(2) HPeV3(1) PIV3(3) Rhino_untype(2) <<2重複3>>	1(1) Rhino_untype(1)
下気道炎	1(1) Rhino_untype(1)	2(2) HCoV-HKU1(1) Rhino_untype(1)	2(1) HCov-NL63(1)	4(2) hMPV(1) Rhino_untype(2) <<2重複1>>	3(3) HCoV-HKU1(1) HCov-NL63(2) PIV1(1) PIV3(1) Rhino_untype(1) <<2重複1>> <<3重複1>>	2(1) PIV3(1)	1(1) Rhino_untype(1)
RSウイルス感染症	2(1) Ad1(1)	2(2) RSA(1) RSB(1)	4(3) hMPV(1) RSA(1) RSB(1)	7(6) hMPV(1) RSA(4) RSB(2) <<2重複1>>	4(3) Rhino_untype(1) RSA(2)	2(2) RSA(2)	2(2) RSA(1) RSB(1)
流行性角結膜炎・急性出血性結膜炎		2(2) Ad37(1) Ad53(1)		1(1) Ad56(1)			
その他	10(3) Ad2(2) HCoV-OC43(1)		7(2) CA6(1) FLU_B(1) RhinoC(1) <<2重複1>>	8(3) Rhino_untype(3)	3(2) Rhino_untype(2)	7(2) CA6(1) STFSウイルス(1)	13(3) Rhino_untype(3)
麻疹・風しん	31(0)	22(3) measles_untype(1) measlesD8(2)	188(17) measles_untype(7) measlesA(2) measlesD10(1) measlesD8(6) measlesD9(1)	88(0)	67(3) measlesD8(3)	54(0)	24(0)
デング熱			2(0)		1(1) Dengue1(1)		
計	137(81)	106(81)	286(85)	135(24)	121(38)	128(48)	88(30)
構成(%)	8.7	6.7	18.1	8.5	7.6	8.1	5.6
陽性(%)	59.1	76.4	29.7	17.8	31.4	37.5	34.1

註：（ ） 陽性数、《 》2種類以上の検出がみられた検体数

AH3,インフルエンザA香港型;AH1,同ソ連型;B,同B型;Ad,アデノ;CA,コクサッキーA型;CB,同B型;E,エコー;NV,J/O;HSV,単純ヘルペス;HHV,ヒトヘルペス,hMPVヒトメタニューモ、HBoVヒトボカ、PIV(バインフルエンザ

8	9	10	11	12	計	構成 (%)	陽性 (%)	検出ウイルス
6(6) FLU_AH1pdm09(5) hMPV(1)	7(5) FLU_AH1pdm09(3) FLU_B_Victoria(1) hMPV(1) Rhino_untype(1) <<2重複1>>	12(12) ECHO9(1) EV-D68(2) FLU_AH1pdm09(9) hMPV(1) <<2重複1>>	41(35) FLU_AH1pdm09(30) FLU_AH3(3) FLU_B_Victoria(2) hMPV(1) <<2重複1>>	104(88) FLU_AH1pdm09(83) FLU_AH3(5)	376(336)	23.8	89.4	CA6(2) ECHO9(1) EV-D68(2) FLU_AH1pdm09(165) FLU_AH3(39) FLU_B_Victoria(122) hMPV(5) Rhino_untype(3) RSA(2) <<2重複5>>
1(1) Ad2(1)		1(1) Ad54(1)	2(2) Ad2(2)		14(11)	0.9	78.6	Ad1(1) Ad2(5) Ad3(3) Ad54(1) hMPV(1)
8(2) hMPV(1) NVG2-4(1)	5(0)	13(2) Ad_untype(1) Astro_type1(1) Rhino_untype(1) <<2重複1>>	8(4) NVG1-2(1) NVG2-4(1) RotaAG3(2)	9(4) NVG2-6(2) RotaAG3(1) SapoG2(1)	131(70)	8.3	53.4	Ad_untype(1) Ad2(2) Astro_type1(2) Astro_type4(1) hMPV(1) NVG1-2(1) NVG1-3(1) NVG2_untype(4) NVG2-17(2) NVG2-4(21) NVG2-6(3) NVG2-7(18) Rhino_untype(1) RotaAG1(1) RotaAG2(2) RotaAG3(3) RotaAG8(1) SapoG1-1(1) SapoG2(1) SapoG2-5(4) SapoG5(1) <<2重複2>>
1(0)			1(0)		6(2)	0.4	33.3	VZV(2)
9(6) CA16(2) CA6(2) EV-A71(1) HPeV1(1) RhinoC(1) <<2重複1>>	2(2) CA16(1) EV-A71(1) hMPV(1) RhinoB(1) <<2重複2>>	8(8) CA16(4) EV-A71(2) hMPV(1) HPeV1(1) Rhino_untype(1) <<2重複1>>	4(1) EV-A71(1) HPeV_untype(1) <<2重複1>>	3(1) CA16(1)	68(54)	4.3	79.4	CA10(2) CA16(12) CA6(30) EV-A71(6) hMPV(2) HPeV_untype(1) HPeV1(2) Rhino_untype(1) RhinoA(3) RhinoB(1) RhinoC(2) <<2重複8>>
4(2) EV-A71(1) EV-D68(1)	1(1) Rhino_untype(1)	1(1) hMPV(1)		2(0)	19(10)	1.2	52.6	Ad2(1) CA10(1) CA6(1) ECHO11(1) EV-A71(1) EV-D68(1) hMPV(3) Rhino_untype(1)
	1(0)		2(1) ParvoB19(1)	1(1) ParvoB19(1)	8(2)	0.5	25.0	ParvoB19(2)
	1(0)	3(2) HHV6_untype(1) hMPV(1)			13(7)	0.8	53.8	Ad3(1) HHV6_untype(3) hMPV(2) HHV7(1)
	1(0)				4(0)	0.3	0.0	
5(0)	1(0)		7(4) HPeV_untype(1) Rhino_untype(3)	5(2) HPeV1(2)	32(9)	2.0	28.1	Hbov(1) HPeV_untype(1) HPeV1(2) Rhino_untype(6) <<2重複1>>
7(1) ECHO9(1)	2(1) ECHO9(1) hMPV(1) <<2重複1>>	7(3) RhinoC(3)	10(3) ECHO9(1) EV-B(1) RhinoC(1)	7(0)	70(10)	4.4	14.3	ECHO9(3) EV-B(1) hMPV(1) RhinoA(1) RhinoC(5) <<2重複1>>
		3(1) CA5(1)	3(1) Rhino_untype(1)		13(8)	0.8	61.5	CA5(1) HCoV-HKU1(2) HPeV3(1) PIV3(3) Rhino_untype(4) <<2重複3>>
1(1) Rhino_untype(1)	5(4) EV-D68(1) HPeV6(1) Rhino_untype(2)	4(2) EV-D68(2)	6(4) Rhino_untype(4)	5(1) Rhino_untype(1)	36(23)	2.3	63.9	EV-D68(3) HCoV-HKU1(2) HCoV-NL63(3) hMPV(1) HPeV6(1) PIV1(1) PIV3(2) Rhino_untype(14) <<2重複2>> <<3重複1>>
2(0)	2(2) EV-D68(1) hMPV(1) RSA(1) <<2重複1>>		5(1) RSA(1)	2(0)	34(22)	2.1	64.7	Ad1(1) EV-D68(1) hMPV(3) Rhino_untype(1) RSA(13) RSB(5) <<2重複2>>
	1(1) Ad37(1)	1(1) Ad37(1)			5(5)	0.3	100.0	Ad37(3) Ad53(1) Ad56(1)
13(1) NVG2-4(1)	5(1) EV-A71(1)	2(0)	9(4) CB3(1) ECHO7(2) Rhino_untype(1)	16(6) CA16(2) ECHO11(2) HPeV1(1) Rhino_untype(1)	93(27)	5.9	29.0	Ad2(2) CA16(2) CA6(2) CB3(1) ECHO11(2) ECHO7(2) EV-A71(1) FLU_B(1) HCoV-OC43(1) HPeV1(1) NVG2-4(1) Rhino_untype(10) RhinoC(1) STFSウイルス(1) <<2重複1>>
27(0)	21(0)	14(0)	39(7) measlesA(2) measlesB3(5)	81(4) measles_untype(3) measlesB3(1)	656(34)	41.4	5.2	measlesA(4) measlesB3(6) measlesD8(11) measlesD9(1) measlesD10(1) measles_untype(11)
2(1) Dengue3(1)					5(2)	0.3	40.0	Dengue1(1) Dengue3(1)
86(21)	55(17)	69(33)	137(67)	235(107)	1583(632)	100.0	39.9	
5.4	3.5	4.4	8.7	14.8	100.0			
24.4	30.9	47.8	48.9	45.5	39.9			

表4. 疾患別にみた検体の種類とウイルス陽性数（2024.1～12）

疾患名/検体名	便・直腸拭い	咽頭拭い液	うがい液	鼻汁・鼻腔拭い液
インフルエンザ		116(85) CA6(2) ECHO9(1) EV-D68(2) FLU_AH1pdm09(48) FLU_AH3(6) FLU_B_Victoria(20) hMPV(5) Rhino_untype(3) RSA(2) <<2重複4>>	87(84) FLU_AH1pdm09(39) FLU_AH3(10) FLU_B_Victoria(35)	170(165) FLU_AH1pdm09(76) FLU_AH3(23) FLU_B_Victoria(67) <<2重複1>>
咽頭結膜熱		14(11) Ad1(1) Ad2(5) Ad3(3) Ad54(1) hMPV(1)		
感染性胃腸炎	128(67) Ad2(1) Astro_type1(2) Astro_type4(1) NVG1-2(1) NVG1-3(1) NVG2_untype(4) NVG2-17(2) NVG2-4(21) NVG2-6(3) NVG2-7(18) RotaAG1(1) RotaAG2(2) RotaAG3(3) RotaAG8(1) SapoG1-1(1) SapoG2(1) SapoG2-5(4) SapoG5(1) <<2重複1>>	1(1) hMPV(1)		2(2) Ad_untype(1) Ad2(1) Rhino_untype(1) <<2重複1>>
水痘		3(1) VZV(1)		1(0)
手足口病	15(13) CA10(1) CA16(3) CA6(8) EV-A71(1) HPeV_untype(1) RhinoC(1) <<2重複2>>	49(40) CA10(1) CA16(9) CA6(22) EV-A71(5) hMPV(2) HPeV1(2) Rhino_untype(1) RhinoA(2) RhinoB(1) RhinoC(1) <<2重複6>>		3(0)
ヘルパンギーナ	1(0)	18(10) Ad2(1) CA10(1) CA6(1) ECHO11(1) EV-A71(1) EV-D68(1) hMPV(3) Rhino_untype(1)		
伝染性紅斑		2(0)		
突発性発しん		12(6) Ad3(1) HHV6_untype(2) HHV7(1) hMPV(2)		
流行性耳下腺炎		4(0)		
脳症・脳脊髄炎	11(3) HPeV_untype(1) HPeV1(1) Rhino_untype(1)	1(0)		9(5) HboV(1) HPeV1(1) Rhino_untype(4) <<2重複1>>
無菌性髄膜炎	14(4) ECHO9(2) RhinoA(1) RhinoC(1)	6(2) ECHO9(1) hMPV(1) RhinoC(1) <<2重複1>>		5(3) EV-B(1) RhinoC(2)
口内炎・上気道炎	1(1) CA5(1)	1(1) Rhino_untype(1)		11(6) HCoV-HKU1(2) HPeV3(1) PIV3(3) Rhino_untype(3) <<2重複3>>
下気道炎	3(1) HPeV6(1)	1(1) Rhino_untype(1)		28(18) EV-D68(3) HCoV-HKU1(2) HCoV-NL63(2) hMPV(1) PIV1(1) PIV3(2) Rhino_untype(11) <<2重複2>> <<3重複1>>
RSウイルス感染症		15(7) Ad1(1) EV-D68(1) hMPV(3) Rhino_untype(1) RSA(3) <<2重複2>>		18(14) RSA(9) RSB(5)
流行性角結膜炎・急性出血性結膜炎				
その他	40(12) Ad2(1) CA16(1) CB3(1) ECHO11(1) ECHO7(1) EV-A71(1) HCoV-OC43(1) HPeV1(1) NVG2-4(1) Rhino_untype(3)	8(2) Ad2(1) CA6(1) RhinoC(1) <<2重複1>>	1(1) CA6(1)	23(7) ECHO11(1) Rhino_untype(6)
麻疹・風しん		210(11) measles_untype(2) measlesA(2) measlesB3(1) measlesD8(5) measlesD9(1)		14(2) measles_untype(1) measlesB3(1)
デング熱				
計	213(101)	461(178)	88(85)	284(222)
構成(%)	13.5	29.1	5.6	17.9
陽性(%)	47.4	38.6	96.6	78.2

注：（ ） 陽性数、《》2種類以上の検出がみられた検体数

AH3,インフルエンザA香港型;AH1,同ノ型型;B,同B型;Ad,アデノ;CA,コクサッキーA型;CB,同B型;E,エコー;NV,ノロ;HSV,単純ヘルペス;HHV,ヒトヘルペス,hMPVヒトメタニューモ、HBoVヒトボカ、PIVバインフルエンザ,

喀痰・気管吸引液	結膜拭い液	髄液	血液・血清	尿	皮膚拭い液 ・水疱	計	構成 (%)	陽性 (%)
2(2) FLU_AH1pdm09(2)		1(0)				376(336)	23.8	89.4
						14(11)	0.9	78.6
						131(70)	8.3	53.4
					2(1) VZV(1)	6(2)	0.4	33.3
1(1) RhinoA(1)						68(54)	4.3	79.4
						19(10)	1.2	52.6
			6(2) ParvoB19(2)			8(2)	0.5	25.0
			1(1) HHV6_untype(1)			13(7)	0.8	53.8
						4(0)	0.3	0.0
2(1) Rhino_untype(1)		6(0)	1(0)	1(0)	1(0)	32(9)	2.0	28.1
		35(1) RhinoC(1)	5(0)	5(0)		70(10)	4.4	14.3
						13(8)	0.8	61.5
4(3) HCov-NL63(1) Rhino_untype(2)						36(23)	2.3	63.9
1(1) RSA(1)						34(22)	2.1	64.7
	5(5) Ad37(3) Ad53(1) Ad56(1)					5(5)	0.3	100.0
3(2) FLU_B(1) Rhino_untype(1)		7(2) CA16(1) ECHO7(1)	10(1) STFSウイルス(1)	1(0)		93(27)	5.9	29.0
			221(12) measles_untype(4) measlesA(2) measlesB3(2) measlesD10(1) measlesD8(3)	211(9) measles_untype(4) measlesB3(2) measlesD8(3)		656(34)	41.4	5.2
			3(2) Dengue1(1) Dengue3(1)	2(0)		5(2)	0.3	40.0
13(10)	5(5)	49(3)	247(18)	220(9)	3(1)	1583(632)	100.0	39.9
0.8	0.3	3.1	15.6	13.9	0.2	100.0		
76.9	100.0	6.1	7.3	4.1	33.3	39.9		

2. 細菌検査情報

1) 大阪府内で届け出のあった一類、二類（結核を除く）および三類感染症の病原菌検出状況

大阪府ではこの 1 年間にペスト（一類感染症）、ジフテリア（二類感染症）は発生しなかった。三類感染症は以下のとおりである。

1. コレラ：この一年間に発生はなかった。
2. 細菌性赤痢：1 例あり、推定感染国はミャンマーで、*Shigella boydii* 1 が分離された。
3. 腸チフス：3 例あり、推定感染国は 2 例がバングラデシュ、1 例がミャンマーであった。
4. パラチフス：1 例あり、推定感染国はインドネシアであった。
5. 腸管出血性大腸菌感染症：226 例の届出があった。その内訳としては、O157 によるものが最も多く 167 例あり、次いで O26 が 16 例であった（表 5）。

2) 四類及び五類感染症の病原菌検出状況

レジオネラ症の届出があった患者の喀痰計 13 検体からレジオネラ属菌が分離され、11 株は *Legionella pneumophila* 血清群 1、1 株は *L. pneumophila* 血清群 3、1 株は *L. pneumophila* 血清群 9 と同定された。

侵襲性髄膜炎菌感染症について 10 例の届出があり、分離された菌株の血清型別を実施した結果、Y 群（7 株）、B 群（3 株）が検出された。また、MLST 型は Y 群では ST1655 が 5 株、ST2057 と ST1466 が各 1 株、B 群株では ST2057 であった。薬剤感受性試験では、B 群株すべてと Y 群/ST2057 株がレボフロキサシンが中間耐性、Y 群/ST1466 株がアンピシリン中間耐性を示した。

表5 腸管出血性大腸菌の血清群 2024年

血清群	VT型	感染者数
	1	2
O157	2	61
	1&2	104
O157小計		167
O5	1	1
O8	2	1
O26	1	12
O26	2	3
O26	1&2	1
O28ab	2	1
O43	1	1
O45	1	1
O63	2	1
O71	1	1
O91	1	1
O103	1	7
O108	2	1
O111	1	3
O111	1&2	4
O115	1	1
O118	1	2
O121	1	1
O145	1	2
O145	2	1
O146	1&2	1
O165	2	1
O168	2	1
O171	1	1
O174	2	1
O181	1	1
O182	1	1
OgN8	2	1
OgN8	1&2	1
OgN12	1	1
O群不明	1	2
O群不明	2	1
O157以外小計		59
合計		226

定点医療機関から A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎咽頭ぬぐい液 51 検体の提出があり、そのうち 46 例から *Streptococcus pyogenes* を分離した。T 蛋白血清型は 19 株が T1、15 株が TB3264、8 株が T12 および 4 株が T4 であった。

定点医療機関において感染性胃腸炎患者から分離されたサルモネラ属菌 6 株について血清型別を実施した。それぞれの血清型は 3 株が *Salmonella* Enteritidis、2 株が *S. Schwarzengrund*、残りの 1 株が *S. Braenderup* であった。

3) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌の検出状況

表 6 に大阪府内で検出されたカルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）の菌種およびカルバペネマーゼ遺伝子保有状況を示した。検出されたカルバペネマーゼ遺伝子型は IMP 型がもっとも多く、ついで NDM 型であった。NDM、KPC 型の両方を保有する *Klebsiella oxytoca* complex が 1 株検出され、届出情報より海外からの持ち込み例と考えられた。カルバペネマーゼ遺伝子が検出されない菌株の割合（80.7%）は、昨年（77.7%）から微増していた。

表6 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌検出状況

菌種	株数合計	カルバペネマーゼ遺伝子型			
		IMP型	NDM型	NDM+KPC型	検出されず
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	57	2	1		54
<i>Klebsiella pneumoniae</i> complex	47	12	1		34
<i>Klebsiella aerogenes</i>	37	1			36
<i>Escherichia coli</i>	17	3	10		4
<i>Serratia marcescens</i>	6				6
<i>Citrobacter</i> spp.	5	2			3
<i>Proteus</i> spp.	3				3
<i>Klebsiella oxytoca</i> complex	3	1		1	1
<i>Morganella morganii</i>	1				1
合計	176	21	12	1	142

*()内はIMP型以外に検出されたカルバペネマーゼの種類

4) 溶血性レンサ球菌感染症調査（近畿地区の成績）

近畿地区内で報告のあった劇症型溶血性レンサ球菌感染症（届出に満たない重症溶血性レンサ球菌感染症を含む）のうち、原因菌株が確保できた 180 例（昨年は 51 例）について解析を実施した（表 7）。原因菌株の血清群ごとの内訳は、A 群が 108 株、B 群が 21 株、C 群が 3 株および G 群が 48 株であった。A 群 108 株のうち、T 蛋白血清型は T1 が最も多く（52 株、48.1%）、次いで型別不能（T-UT）（28 株、15.6%）であった。M 蛋白遺伝子型（*emm* 型）については *emm1.0* が最も多く（51 株、36.8%）、次いで *emm12.0*（12 株、11.1%）および *emm81.0*（12 株、11.1%）であった。T1 の分離比率は昨年の 45.4%からわずかに上昇した。*emm1.0* 51 株のうち病原性が高いと言われる M1UK 系統株は 49 株（96.1%）であった。

B群の莢膜血清型は、Ib型が8株（38.1%）と最も多く、次いでV型が4株（19.0%）であった。G群のM蛋白遺伝子型は、stG485.0が最も多く（9株、18.8%）、次いでstG6792.3が多かった（8株、16.7%）。

（文責：河合）

表7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症例 2024年 近畿地区

年齢	性別	発症日	発生区域	診断名	菌種	血清群	血清型	emm型	毒素型	転帰
1	78	男	2024/1/7	和歌山県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0	
2	44	男	2024/1/11	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
3	49	女	2024/1/12	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm49.0	speB
4	7	女	2024/1/15	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	TB3264	emm89.0	speB, C
5	88	女	2024/1/17	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
6	80	男	2024/1/17	京都府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib		
7	90	男	2024/1/17	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3	
8	86	女	2024/1/18	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB
9	18	女	2024/1/18	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B
10	48	女	2024/1/19	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm89.0	speB, C
11	75	男	2024/1/20	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
12	68	男	2024/1/22	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	TB3264	emm89.0	speB, C
13	82	女	2024/1/24	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
14	12	男	2024/1/24	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
15	80	女	2024/1/26	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
16	60	女	2024/1/30	和歌山県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
17	67	男	2024/1/30	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
18	51	女	2024/1	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
19	94	男	2024/2/1	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm89.0	speB, C
20	86	男	2024/2/2	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
21	87	男	2024/2/3	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6.1	
22	80	男	2024/2/3	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG652.0	
23	81	男	2024/2/8	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.0	
24	45	女	2024/2/12	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
25	68	女	2024/2/15	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B
26	36	女	2024/2/23	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B
27	71	女	2024/2/23	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG840.0	
28	51	男	2024/2/28	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
29	50	男	2024/2/29	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
30	41	女	2024/2	大阪府	重症A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B
31	72	男	2024/2	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
32	9	女	2024/2	奈良県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
33	4	男	2024/2	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
34	52	男	2024/3/1	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG653.0	
35	46	女	2024/3/3	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
36	30	男	2024/3/4	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
37	48	男	2024/3/10	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T28	emm87.0	speB
38	41	女	2024/3/15	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B
39	91	女	2024/3/16	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0	
40	1M	男	2024/3/18	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib		
41	82	女	2024/3/18	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
42	76	男	2024/3/19	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	V		
43	43	女	2024/3/22	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B
44	39	男	2024/3/23	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C
45	39	女	2024/3/27	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	IV		
46	86	女	2024/3/28	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG653.0	
47	81	男	2024/3/30	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB
48	93	女	2024/3/30	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB
49	70	女	2024/3/31	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG653.0	
50	93	女	2024/3	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG840.0	
51	72	男	2024/3	滋賀県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3	
52	75	男	2024/3	大阪府	重症A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B

V 検査情報

53	43	男	2024/4/4	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	
54	70	男	2024/4/6	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	TB3264	emm89.0	speB, C	
55	58	男	2024/4/9	滋賀県	重症G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		UT		
56	74	女	2024/4/12	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
57	53	男	2024/4/15	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG2078.0		
58	67	女	2024/4/19	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	死亡
59	59	男	2024/4/23	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	死亡
60	78	男	2024/4/25	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm49.0	speB	
61	28	女	2024/4/26	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	死亡
62	72	男	2024/4	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG840.0		
63	70	男	2024/4	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	
64	80	女	2024/5/1	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm77.0	speB	
65	62	男	2024/5/2	滋賀県	劇症型C群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>ruminatorum</i>	C				
66	60	男	2024/5/2	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	
67	79	女	2024/5/2	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	IV			
68	32	男	2024/5/3	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T4	emm4.0	speB	
69	47	女	2024/5/5	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
70	59	女	2024/5/5	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
71	43	女	2024/5/8	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm58.25	speB, C	
72	95	女	2024/5/12	滋賀県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG840.0		
73	70	男	2024/5/13	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	死亡
74	85	男	2024/5/16	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm49.0	speB	
75	59	男	2024/5/17	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm77.0	speB	
76	88	男	2024/5/19	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	V			死亡
77	40	男	2024/5/19	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
78	44	男	2024/5/20	大阪府	劇症型C群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	C		stC839.0		
79	73	女	2024/5/21	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	
80	68	男	2024/5/24	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
81	64	男	2024/5	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG840.0		
82	61	男	2024/6/4	京都府	劇症型C群レンサ球菌感染症	<i>S. anginosus</i>	C				
83	87	女	2024/6/7	滋賀県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3		
84	39	女	2024/6/7	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
85	67	女	2024/6/8	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm11.0	speB, C	
86	81	女	2024/6/10	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.0		
87	63	女	2024/6/10	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0		死亡
88	55	男	2024/6/10	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T14/49	emm221.0	speB, C	
89	73	男	2024/6/10	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
90	73	男	2024/6/14	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ia			
91	90	女	2024/6/14	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3		
92	80	男	2024/6/19	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	死亡
93	43	女	2024/6/24	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	死亡
94	62	男	2024/6/25	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
95	93	女	2024/6/26	和歌山県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
96	75	男	2024/6/28	京都府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib			
97	66	男	2024/6/30	和歌山県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	IV			
98	95	女	2024/6	大阪府	重症G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0		死亡
99	78	男	2024/6	京都府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	UT			
100	83	男	2024/6	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	V			死亡
101	47	男	2024/7/1	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.3	speA, B	
102	90	男	2024/7/2	京都府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	V			
103	90	男	2024/7/2	京都府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib			
104	55	男	2024/7/6	奈良県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.0	speB	
105	44	男	2024/7/7	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG653.0		
106	49	女	2024/7/10	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T14/49	emm49.0	speB	
107	61	男	2024/7/11	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG2574.3		死亡
108	78	男	2024/7/17	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	
109	73	男	2024/7/21	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	
110	93	女	2024/7/22	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	VIII			
111	78	男	2024/7/27	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm58.0	speB	
112	64	女	2024/7/30	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.0		
113	60	女	2024/7/30	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	死亡
114	61	男	2024/7	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3		
115	88	女	2024/7	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG652.0		死亡
116	50	女	2024/7	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	TB3264	emm89.0	speB	死亡

感染症発生動向調査事業報告書 第43報

117	87	男	2024/8/5	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.0		
118	70	男	2024/8/6	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG480.0		死亡
119	40	男	2024/8/8	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
120	87	女	2024/8/12	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
121	82	男	2024/8/13	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	死亡
122	89	女	2024/8/15	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.11		死亡
123	39	男	2024/8/15	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	TB3264	emm89.0	speB, C	
124	73	女	2024/8/18	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	死亡
125	69	男	2024/8/19	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	
126	79	男	2024/8/20	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T12	emm12.16	speB, C	
127	70	男	2024/8/20	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm89.0	speB, C	
128	84	男	2024/8/23	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG840.0		死亡
129	89	女	2024/8/29	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0		死亡
130	85	女	2024/8/31	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0		死亡
131	89	男	2024/8/31	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3		死亡
132	57	女	2024/8	滋賀県	重症A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm49.11	speB	
133	79	女	2024/8	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	II			
134	30	男	2024/9/7	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
135	90	女	2024/9/8	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0		
136	47	男	2024/9/9	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
137	40	男	2024/9/16	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
138	84	男	2024/9/20	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stC74a.0		
139	74	男	2024/9/24	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG653.0		
140	85	男	2024/9/30	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG652.17		
141	63	女	2024/9/30	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm87.0	speB	
142	88	女	2024/9/30	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG840.0		
143	85	男	2024/9	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	II			
144	77	男	2024/10/10	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0		
145	83	男	2024/10/11	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib			
146	67	男	2024/10/11	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm89.0	speB, C	
147	72	女	2024/10/13	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	死亡
148	69	男	2024/10/16	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	
149	41	男	2024/10/18	兵庫県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3		
150	52	男	2024/10/22	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm108.1	speB	死亡
151	70	男	2024/10/24	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	
152	86	女	2024/10/29	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib			死亡
153	0	女	2024/10	大阪府	重症B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	III			
154	76	男	2024/11/5	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T13	emm108.1	speB	死亡
155	83	女	2024/11/5	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG6792.3		
156	77	女	2024/11/8	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.0		
157	41	男	2024/11/11	京都府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T11	emm77.0	speB	
158	76	男	2024/11/17	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
159	86	男	2024/11/18	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.0		死亡
160	84	男	2024/11/21	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	A		stG643.0		死亡
161	80	女	2024/11/26	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	死亡
162	94	女	2024/11/30	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0		
163	82	男	2024/11/30	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
164	90	男	2024/11	和歌山県	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG245.0		
165	76	男	2024/12/4	滋賀県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
166	26	男	2024/12/11	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	
167	79	男	2024/12/13	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	TB3264	emm89.0	speB, C	
168	80	男	2024/12/16	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm49.0	speB	死亡
169	50	女	2024/12/21	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG485.0		
170	71	女	2024/12/23	奈良県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	死亡
171	73	男	2024/12/24	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T13	emm81.0	speB	死亡
172	48	男	2024/12/28	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B, C	
173	54	男	2024/12/29	大阪府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG652.0		
174	39	女	2024/12/30	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T1	emm1.0	speA, B	
175	79	女	2024/12/30	大阪府	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib			
176	82	女	2024/12/30	兵庫県	劇症型B群レンサ球菌感染症	<i>S. agalactiae</i>	B	Ib			
177	76	男	2024/12/31	大阪府	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T13	emm108.0	speB	
178	62	男	2024/12	大阪府	重症A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm89.0	speB, C	
179	70	女	2024/12	京都府	劇症型G群レンサ球菌感染症	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	G		stG653.0		
180	72	男	2024/12	兵庫県	劇症型A群レンサ球菌感染症	<i>S. pyogenes</i>	A	T-UT	emm81.0	speB	